

将来都市像に掲げる「暮らしの楽しさを実感できる『歩きつながる』まち」を実現するため、都市の魅力や活力を高め、多様な連携や交流を育む都市づくりを推進します。

1. にぎわい交流の拠点づくり

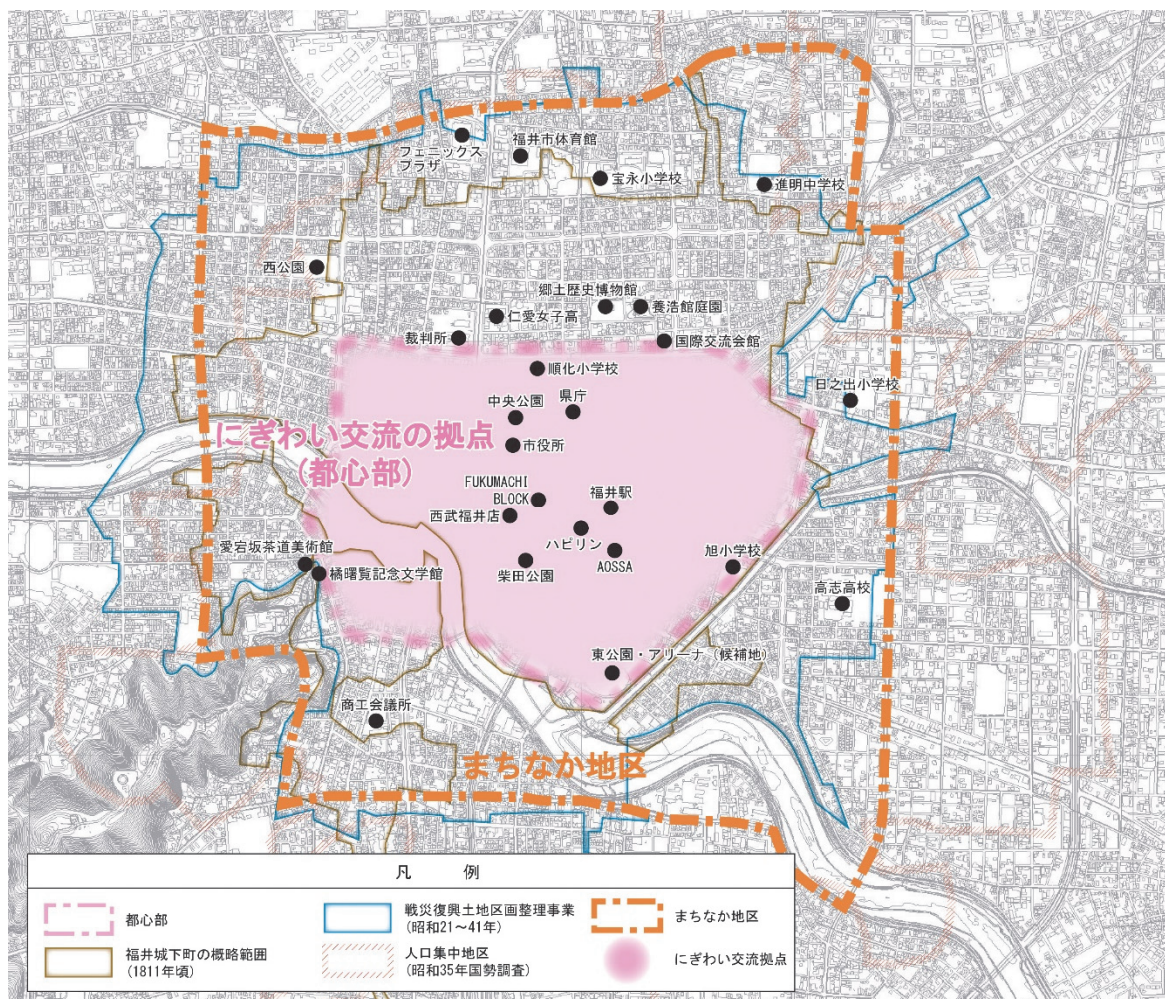
(1) 基本的な考え方

都市計画マスタープランにおいては、概ね以下のような歴史的変遷で定義される範囲をまちなか地区として考えます。

<p>歴史的 変遷</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の市街地が形成される礎となった福井城下町(江戸中期～後期)の範囲 ・明治以降、本市の都市構造をダイナミックに変えることとなった最初の面的な基盤整備である戦災復興土地区画整理事業の範囲 ・現在の既成市街地の定義となる昭和35年DID(人口集中地区)の範囲
-------------------	---

これまで、まちなか地区は、福井県及び福井市の社会経済活動の中心的役割を果たしてきた地区であり、商業・業務・居住機能や交通結節機能等が集積しています。北陸新幹線福井開業や市街地再開発事業により、多くの観光客が訪れ、にぎわいが見られるようになり、今後、更にはにぎわいや活力を高めていくことが求められています。

また、まちなか地区の中心的な拠点となる福井駅を中心としたエリアを、県都の活力を支えるための「にぎわい交流の拠点(都心部)」として位置付けます。



(2) まちなか地区の整備の方針

○人を引きつける魅力づくり

- ・建築物の共同化や複合化、高層化や大規模化により、商業・業務・公共公益(文化・福祉・大学キャンパス等の教育等)機能の集積を図るとともに、個々の店舗や事務所、施設の魅力を高め、人々が集いにぎわう魅力的でシンボリックな空間を創出します。
- ・質の高い都市基盤整備を計画的に進めながら、福井駅前南通り地区等の民間活力を活用した再開発・高度利用の推進や、都市機能の集積の波及効果と公共交通との連携を強化するため、路面軌道沿道の土地利用の高度化を促進し、県都の玄関口にふさわしい拠点づくりを推進します。
- ・福井駅周辺には、本市及び県内の観光や産業に関する情報の発信や特産品等の紹介等の機能を維持・誘導します。また、広域的な玄関口となる福井駅東口エリアでは、官民連携のもと、都心部全体のにぎわいの創出につながる都市機能誘導施設(アリーナ等)の立地促進を図ります。

○回遊性の向上

- ・主要な機能をネットワークでつなぐ歩行者空間を確保するとともに、水や緑を活用したオープンスペースや人だまり空間の確保、無電柱化や歩道の整備等によって、歩いて楽しめる空間を創出します。
- ・地域の景観特性と調和した良好な景観の形成や、光を活かした魅力的な夜間景観の創出とそれらを楽しむ回遊ルートの設定、「歴史のみち」を活用した足羽山や足羽川、福井城址等の地域資源を活かしたネットワークづくり等により回遊の魅力を高めます。

○公共交通利便性の向上

- ・福井駅周辺においては、新幹線の利用者や様々な交通手段でアクセスする市民の利便性を確保するために、公共交通の結節機能を強化します。
- ・路面電車やコミュニティバス、路線バス等の公共交通の維持・充実により、市内全域、さらには県内外からの来訪者がどんな交通手段でも集まることのできる取組を推進します。

○都市型居住の促進

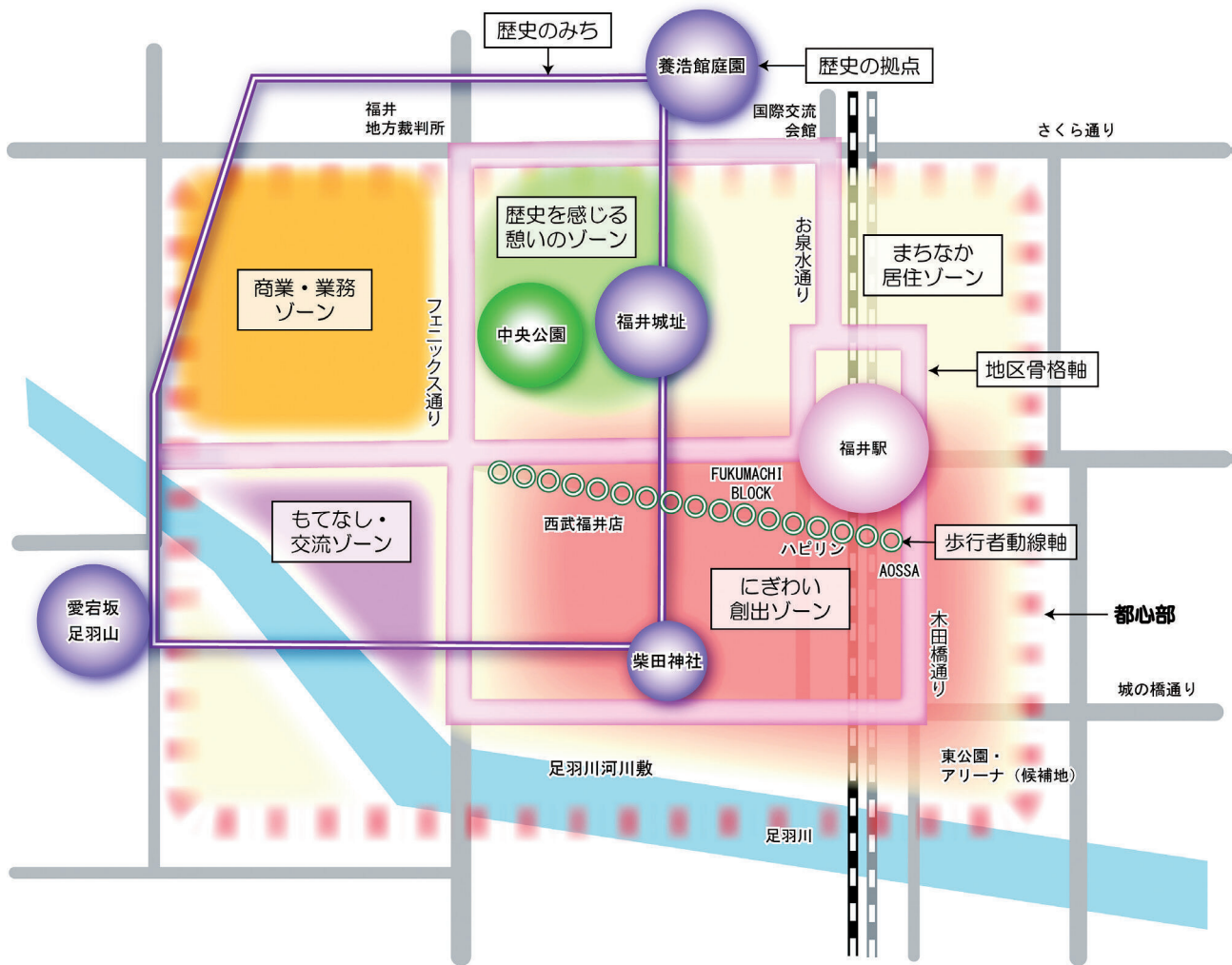
- ・まちなか地区には、自動車だけに頼らなくてもよい、様々な機能が身近にあり、生活利便性が高いライフスタイルがあります。生活圏域が広域化する時代において、都心ならではの住まい方が選択できるよう、都市型居住を促進し、居住人口の回復を図ります。このため、空洞化が進む市街地において、土地の集約化や組み換え・整序を促進して都市型住宅の立地を誘導し、住民が主体となった緑豊かで人と人とのつながりが感じられる居住空間の創出に留意しながら、多様な世代が居住できる魅力ある住宅の供給を促進します。

○市民協働によるにぎわいづくり

- ・県都の中心として、市民や来訪者など、多くの人々がまちに関わり、楽しみ、誇りと愛着が育まれるよう、事業者やまちづくり団体等の多様な主体がともに創意工夫を重ねながら、協働により魅力的な取組を展開します。また、多様な人々が集まり、にぎわいあふれる場づくりに向けた民間の取組を支援します。
- ・まちなか地区の魅力や活力を高めるための都市基盤整備や各種計画策定等の様々な機会において、広く市民の参画を図るとともに、市民主役の活躍の場づくりに向けた検討を行います。

(3) にぎわい交流の拠点の活性化

にぎわい交流の拠点の将来イメージとして、以下のような5つのゾーン及び3つの軸を設定します。
 (5つのゾーンごとの基本方針、3つの軸ごとの基本方針は次ページのとおり)



■都心部の将来イメージ



歩行者動線軸（駅前電車通り）

○5つのゾーンごとの基本方針

区分	基本方針
にぎわい創出ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ・商業、業務機能や交通結節機能が集積するとともに、再開発等の民間活力や既存の道路空間、広場の活用により、多様な人の交流の場や新たなにぎわいが生まれる場を目指します。
歴史を感じる憩いのゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ・福井城址や中央公園を中心として、都心部の歴史・文化を感じる場、働く人、住む人、訪れる人の憩いの場を目指します。
商業・業務ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ・商業、業務、娯楽機能の誘導の推進、都市のにぎわいが感じられる市街地形成を目指します。
もてなし・交流ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ・浜町界隈を中心として、訪れた人をもてなし、交流を深めることができる機能の維持・向上、景観の形成を目指します。
まちなか居住ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ・良好な居住環境を整え、にぎわいや憩いの空間が身近にあり、歩いて暮らせる豊かな生活の場を目指します。

○3つの軸ごとの基本方針

区分	方針
歩行者動線軸	<ul style="list-style-type: none"> ・AOSSA、くるふ福井駅、ハピリン、FUKUMACHI BLOCK、西武福井店を結ぶ線を「歩行者動線軸」として位置付け、沿道施設と道路空間が一体となった歩行者空間の形成により都心部全体の回遊性向上や魅力向上を図ります。
地区骨格軸	<ul style="list-style-type: none"> ・都心部内の主要な移動経路、周辺街区からの集散道路として、自動車の円滑な交通処理を図ります。 ・歩行者、自動車等の通行環境の向上を図ります。 ・鉄道による都心部への来街環境を向上します。 ・魅力ある都市景観の創出を図ります。
歴史のみち・拠点	<ul style="list-style-type: none"> ・都心部の歴史・文化の拠点として、日本遺産に認定された養浩館庭園及び福井城址や、柴田神社等の魅力の向上を推進します。 ・福井城址については、周辺の施設等の活用・連携を図りながら拠点の形成を目指します。 ・拠点間を結ぶ道路としての「歴史のみち」は、拠点間の回遊性の向上を目指します。

2. 市街地と周辺農山漁村地域との交流づくり

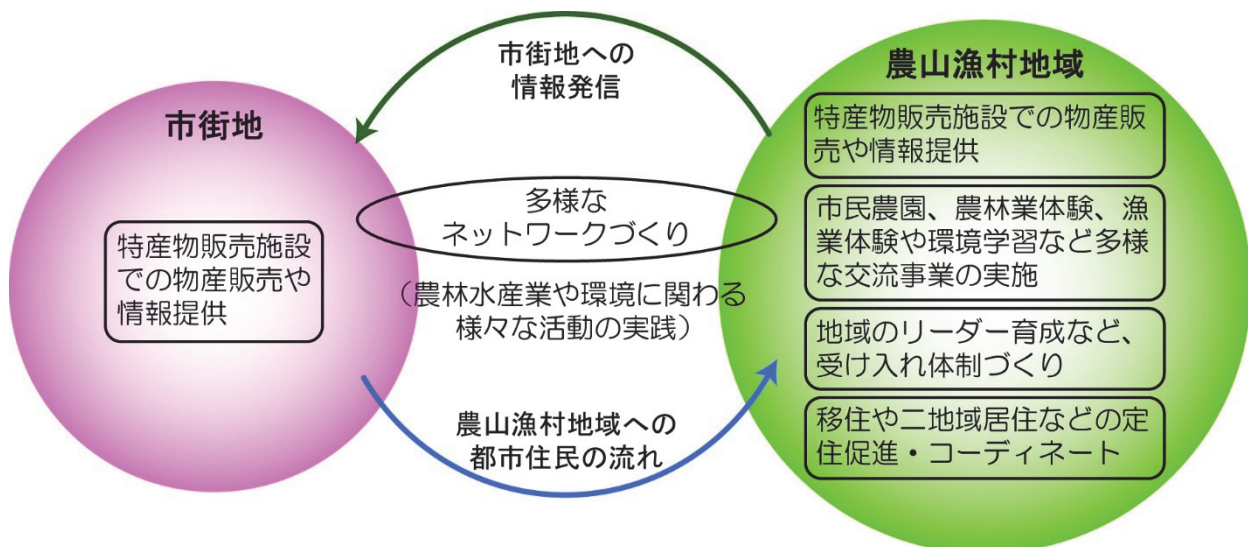
(1) 基本的な考え方

本市は、昭和45年に定められた区域区分により、福井都市計画区域において市街化区域を設定しており、その周辺においては、一団の水田地帯や里山環境、海岸環境が残り、自然を身近に感じることができ環境が形成されています。また、これらの農山漁村地域は、食料の生産・供給の場としてだけでなく、多くの人々の憩い・レクリエーションの場等として積極的に活用し、地域コミュニティの活性化や適切な土地利用の誘導に取り組むことが求められています。

市街地と周辺の農山漁村地域とが多様な主体・多様な活動を通じて交流・連携することにより、やすらぎと暮らしの豊かさを実感できる都市づくりを推進しながら地域を活性化させることで、市外からの人の流れを生み出し、さらに地域との深い関わりにつなげることで、将来の移住につながる関係人口の創出を図ります。

(2) 交流・連携づくりの方針

- ・ 集落の高齢化が進むなかで、地域住民だけで農山漁村地域が有する棚田や海岸等の自然景観やこれらの自然と調和した美しい集落景観等を維持することは困難になることが予測されます。そのため、市街地の住民との交流・連携、移住や二地域居住を積極的に進めながら、農山漁村地域の集落環境の保全と活用に取り組みます。
- ・ 特産物販売施設や市民農園の整備、体験プログラム、グリーンツーリズム、フォレストツーリズムやブルーツーリズム等を通じて都市と農山漁村の交流・連携を推進するとともに、地域の受け入れ体制づくりなど、持続的なネットワークづくりを支援します。
- ・ 農山漁村地域の体験活動等の交流や連携を通じて、地産地消や食育の推進を図ります。
- ・ 農林業の抱える人口減少や高齢化等による担い手不足の問題を解消するとともに、農作業や木製品の製造など、障がい者等が農業や林業分野で持てる力を発揮して活躍することを通じ、自信や生きがいを持って社会参画していく農福連携・林福連携を推進していきます。
- ・ 日常生活を支える貴重な自然環境としての価値を共有し、農山漁村地域だけでなく、市街地地域を含めた多様な関心を有する人々によるNPO等の管理の主体づくりに取り組みます。



■市街地と農山漁村地域との交流・連携イメージ

- ・ 空き地や管理されていない土地については、隣地との一体的利用や、周辺住民をはじめ、他地域との交流や連携の資源となる農園・菜園としての活用など、地区の実情に応じた活用を検討します。
- ・ 農山漁村地域の空き家については、人口減少や相続人不在により管理不十分な空き家が増加していくことが見込まれる一方で、優れた自然環境を有する山間部や海岸部等の立地条件を活かし、恵まれた自然環境に囲まれた暮らしや、テレワークを用いたワーケーション、地域参加のための週末居住など、新たな働き方を希望する者のニーズに応え、移住や二地域居住等の受け皿としての活用や、地域コミュニティを維持するための拠点としての利活用等を検討していきます。
- ・ 生産基盤の強化に加え、地域資源を活用したものづくりや多様な観光・交流など、商工業や観光業、農林水産業等と連携した6次産業化により、地域産業の振興、地域の人々が生き生きと生活できる地域づくりを促進します。



林業の担い手確保に向けた講習会



越廼サテライトオフィス

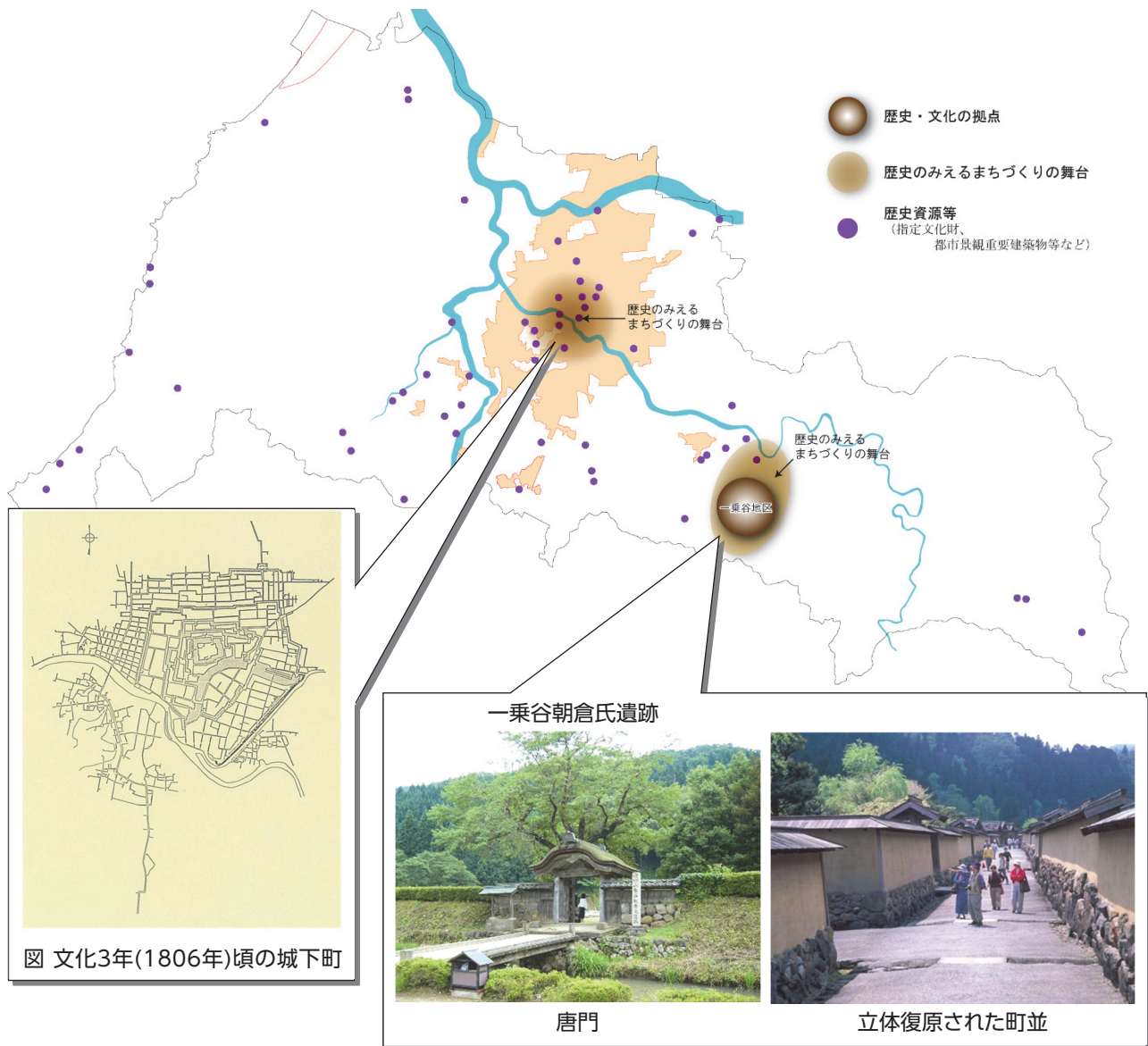
3. 歴史のみえるまちづくり

(1) 基本的な考え方

歴史資産を活用し再生することは、都市や地域のアイデンティティを復活させることであり、個性豊かな都市づくりを推進する上で極めて大きな意味を持ちます。

本市は、縄文時代からの遺跡を始め、古墳も多く分布し、古くから栄えた地域です。1471年(文明3年)に朝倉氏によって築かれた戦国城下町の一乗谷朝倉氏遺跡が国の「特別史跡」に、一乗谷朝倉氏庭園が国の「特別名勝」に、出土品が「重要文化財」に指定されています。また、1575年(天正3年)に柴田勝家が北庄に居城を構えて以降、1606年(慶長11年)に結城秀康が現在の位置に本丸を築城し栄えた城下町の基盤は今の都市づくりにも引き継がれています。

地域の歴史や文化を物語る貴重な歴史資産や寺社・仏閣、伝統的な家屋等は、福井らしい都市づくりの資源と言えます。こどもから高齢者まで、すべての市民が郷土の歴史を学び、まちに対する愛着と誇りを高められるよう、このような資源を活用し、身近に歴史とふれあえる都市づくりを推進します。



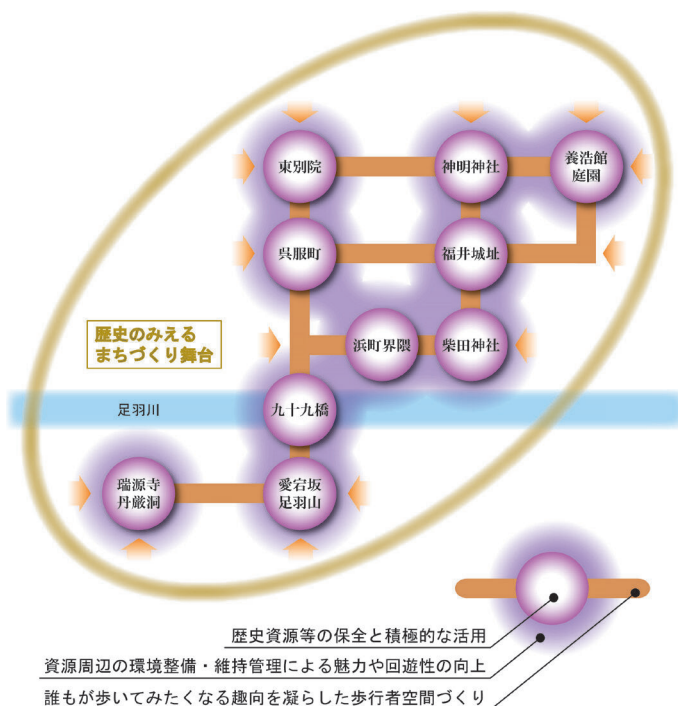
■歴史のみえるまちづくりを支える拠点等

(2) 整備・活用の方針

○にぎわい交流の拠点における歴史のみえるまちづくりの推進

本市は戦災、震災、水害の被害を受け、市街地では目にみえる歴史的な資産が少ないのが現状です。しかしながら、受け継がれている歴史は、市民のアイデンティティであり福井人の誇りでもあります。残された歴史遺産を、有効に活用し積極的に都市づくりに関わりを持たせることで、福井らしい魅力、もてなしを創造し、回遊性の高い都市づくりを進めていきます。

- ・ 福井藩主松平家の別邸であった名勝養浩館庭園、本丸の石垣と内堀が良好に遺存する福井城址、柴田勝家の北庄城の故地といわれる柴田神社（北ノ庄城址）、多くの古墳や神社仏閣がある足羽山など、福井城下の歴史資源の保全や積極的な活用と、これらの周辺環境や歴史資源を結ぶルートの整備・維持管理に取り組み、市民や来訪者が気軽に歴史に親しむことができる環境を創出します。
- ・ 福井城址周辺では、福井城址の活用に関する検討を進めます。
- ・ 浜町界隈は、江戸時代は水運の拠点として、また明治期には料亭街として栄えた歴史の面影を受け継ぎながら良好な景観づくりに取り組むなど、新たな回遊性を創造するもてなしの空間づくりを進めます。
- ・ 地域住民やまちづくり団体等が主体となったまちづくり活動との協働により、ライトアップやイベントの実施など、各拠点の特性を活かした魅力づくりを推進します。
- ・ 「語り部」の支援など、歴史を活かしたまちづくりを推進します。



■にぎわい交流の拠点における歴史のみえるまちづくりの推進イメージ

○朝倉氏遺跡エリアの歴史的文化的環境の保全と活用

- ・ 特別史跡に指定され、日本遺産にも認定された一乗谷朝倉氏遺跡の周辺では、歴史的文化的環境や自然環境の積極的な保全を図るとともに、中世の都市形態等を再現し、歴史体験ができる環境づくりを推進します。
- ・ 来訪者の滞在時間の増加を図るため、「水の駅」等の周辺の公共施設との連携や周辺地区の歴史資源の掘り起こし等を推進します。
- ・ 地域住民との協働による景観づくりや特定景観計画区域の指定等により、一乗谷朝倉氏遺跡周辺地区が一体となった固有の歴史的・文化的な景観整備を推進します。
- ・ 公共交通幹線軸と連携し、市街地とのアクセス性を高めるとともに、来訪者向け表示を多言語対応にするなど、受入環境を充実させることで、来訪者の利便性向上を図ります。

4. 観光まちづくり

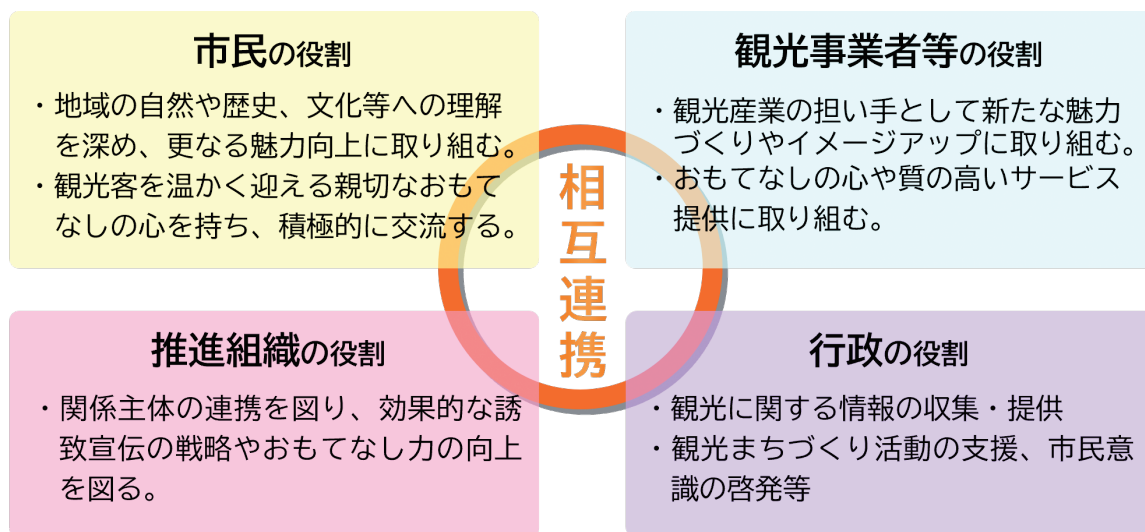
(1) 基本的な考え方

デジタル技術の進展、生活ニーズの多様化・複雑化、生活圏域の広域化など、社会情勢は絶えず変化し、観光を取り巻く状況も大きく変化しています。地方創生の一環として、日本各地で関係人口・交流人口を増やす取組が進められており、我が国の2023年(令和5年)の訪日外国人観光客は2,500万人を超えています。本市においても北陸新幹線福井開業も相まって、外国人を含め、多くの観光客が訪れており、今後も観光需要増加が続く見通しです。

こうした背景のもと、本市は、都市圏や県都の役割に加え、北陸地方の拠点都市として、魅力ある固有の都市力や地域力を高めていくため、ふくい嶺北連携中枢都市圏として周辺自治体との連携を図りつつ、観光に対する市民意識の醸成や、様々な交流や新しい魅力・価値の創造につながる各種プロジェクトの推進など、観光まちづくりを積極的に推進します。

(2) 観光まちづくりの進め方

- ・観光まちづくりを実現するためには、市民、観光事業者や関係団体、推進組織、行政等が役割と責務を共有し、できることから自主的・積極的な取組を推進することが大切です。
- ・多様な主体が連携・協働することにより、これまで以上に多様な交流・連携を促進する都市力や地域力が育まれる効果が期待されます。



(3) 観光まちづくりの方向性

○新たな発想による魅力づくり

- ・参加・体験型の観光ニーズを踏まえた「新たな発想による観光素材」(農業体験や産業体験等に加え、地域の特徴的な生活様式や伝統文化、祭事、地域のまちづくり活動等)の発掘と磨き上げに取り組めます。
- ・日本遺産に認定された一乗谷朝倉氏遺跡、福井城址の石垣等の「石の文化」、養浩館庭園等の地域の歴史や文化を物語る貴重な歴史文化遺産等を観光資源として活用し、観光誘客に取り組めます。
- ・「恐竜王国福井」など、引き続き、福井ブランドの創造、戦略的な発信に取り組めます。

○インバウンド観光の充実、周辺地域との広域連携の強化

- ・ 訪日外国人観光客の増加を見据え、各種団体とも連携しながら、外国人に向けた情報発信をはじめ、インバウンド観光の充実を図ります。
- ・ 本市の充実した観光基盤(飲食・交通・宿泊)と、市内及び周辺の観光地を結ぶ広域観光ネットワークづくりによる滞在型観光の充実を図ります。
- ・ SNSを中心とした戦略的な魅力の発信、更なる魅力アップにつながる北陸新幹線福井開業を契機とした広域ネットワークの充実を図ります。

○観光基盤の充実

- ・ 「滞在したくなる魅力づくり」、「きめ細やかな観光情報提供」、「交通拠点機能の充実」など、観光基盤の充実による“観光拠点の福井”の実現を目指します。
- ・ 北陸新幹線等の広域観光基盤を活かし、多くの人やモノ、情報等の交流、多様な交流が創造する新たな価値等の創出を目指し、MICEを推進します。

○推進体制の充実

- ・ 福井の個性や特長を最大限に活かした観光地としての整備に向けて、多様な関係者が協力し合いながら、地域の活性化や、地域への誇りや愛着を育む様々な取組をコーディネートしていきます。